

大正五年四月六日
昭和三十二年十二月二十日印刷納本
(毎月一回一日發行)

哲學研究

第三十二卷 第九册

第三百七十八號

昭和二十三年十二月二十五日發行

フイヒテ法概念の吟味……………文學士 東 日出男

ルネッサンス期の大學……………文學士 森 昭

——大學の理念の史的展開(三)——

我が國上代に於ける家族
道德思想の研究(承前)
……………文學士 木村 俊 夫
——家族名稱を手懸りとせる——

京 都 大 學 文 學 部 內
京 都 哲 學 會

京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其ノ普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
 - 一 毎月一回研究會ヲ開ク
 - 一 毎年公開講演會ヲ開ク
 - 一 毎月一回「哲學研究」ヲ發行ス
- 第四條 本會ノ事務所ヲ京都大學文學部内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク
 - 一 委員(若干名)京都大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
 - 一 書記(一名)委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得、學校、圖書館、教育會、其ノ他團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年三百六十圓、前後二期ニ分テ前納スルコトヲ得
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得、且ツ雜誌「哲學研究」ノ配布ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

京都哲學會役員

委員	文學博士 有賀鐵太郎
	文學博士 白井二喬
	文學士 上野照夫
	文學士 小山武
	文學士 重澤俊郎
	文學博士 下程勇吉
	文學博士 島芳夫
	文學士 岡原太郎
	文學士 高田三郎
	文學士 武内義範
	田中美知太郎
	文學士 野田又夫
	文學博士 久松眞一
	文學士 松尾義海
	文學博士 矢田部達郎
	文學博士 山内得立
	文學博士 非島勉

また、斯る事柄を考へると、母性といふものが極めて絶大なる権力を持つて居たかに考へられるが、然し之は親子の關係に於て、子に對して父と母との何れがより多くの親密性を持つかといふことであつて、家族といふ一つの全體に於ける、或は社會的に言つて父性と母性とは何れが大なる権力を持つか、といふ問題ではないのである。或る一部の人々が當時の家族を母權家族とか、母系家族とか呼ぶのは斯る點に對する考慮の缺乏してゐるからである。

註五 「皇極天皇即位前紀」

註六 「考德天皇即位前紀」並に高橋峻「續統法から見た支那の國家觀念」(『日本哲學研究』第一輯、殊にその註十六)參照。

前 號 目 次

文藝特(完)に小説の根源前：文學博士 植田壽藏

教育心理學の類型……文學士 佐藤幸治

聖アウグスチヌスに於ける回心の問題(家前)……文學士 山田品

「新りと淨化・神の問題」

會 告

- 一 本會へ入會希望者ハ京都市左京區田中西浦町弘文堂書房内京都哲學會係宛ニ規定ノ會費(前表紙裏ニアリ)ニ送料ヲ加算シ御納付ノ上御申込被下度候
 - 一 會員ノ轉居入退會等(編集事務以外ノ一切)ノ事務ハ弘文堂書房内京都哲學會係へ御通知被下度候
 - 一 會費ハ「振替口座京都一九五五六番 京都哲學會」宛ニ御拂込被下度候
 - 一 前金切レノ場合ハ「前金切」ノ印章捺捺致スベキニ付直ニ御拂込下沙レ度候
 - 一 本誌ノ編集ニ關スル通信及紹介・新刊書・寄贈雜誌等ハ凡テ本會宛ニ御發送被下度候
- 京都大學 文學部内 **京都哲學會**
- ## 註 文 規 定
- 一 會員にあらざる購讀者の御注文及び廣告に關する件は「弘文堂書房」へ御申込下され度候
 - 一 本誌の御注文はすべて代金郵税共前金にて御送り下され度候
 - 一 特に請求書及び領收書等を要する場合は郵券四圓御送付下され度候

昭和二十三年十二月二十日印刷納本
昭和二十三年十二月二十五日發行

編集人 京都哲學會
京都大學文學部内

石代 表者

小 田 武

發行兼印刷人 久保井理津男
東京都千代田神田區河原町四ノ

印刷所 弘文堂印刷部
京都市田中西浦町四〇

配給元 日本出版配給株式會社
東京都千代田神田區淡路町二ノ九

發行所

株式會社 **弘 文 堂**
東京都千代田神田區河原町四ノ九

價	定
册數	定 價 郵 税
一册	三十五圓 金二圓
六册(前金)	二百十圓 金十二圓
三册(前金)	四百二十圓 金二十四圓

(誌代の變更による會費の過不足は半年又は一年毎に精算いたします)

大正五年四月六日
第三種郵便物認可

昭和二十三年十二月二十日印刷
二十三年十二月二十五日發行
（每月一回發行）

哲 學 研 究 第 二 百 七 十 八 號

定 金 三 十 五 圓
郵 稅 金 二 圓